

■後期基本計画における目標指標作成の考え方

<実現管理方針>

前期基本計画では、施策ごとに目標指標を設定し、目標達成に向けて計画を遂行してきましたが、新型コロナウイルスなどの影響により、過去の慣習や常識から脱却し、的確かつ速やかに変化に対応していく必要が高まっています。このため、計画に位置付けられた施策の着実な実施を指標に基づいて管理する以上に、「目の前の課題に対応できているか」「目指す姿へ着実に近づけているか」を日々確認しながら、施策を展開していくことが求められています。これにより、本市の喫緊の課題である人口減少や厳しい財政事情にも、柔軟に対応していくことが可能になります。

そこで後期基本計画では、「あるべき姿」を実現するための進捗管理として、以下の考え方の下、取り組んでいきます。

<目標指標に対する考え方>

後期基本計画では、行政が取り組むべき活動におけるアウトプットの成果ではなく、こうあるべきという「市民と共有したいありたい姿」を目標とし、各部署において実施状況や成果がきちんと現れているかどうかを自ら確認しながら施策・事業を行っていきます。そのため、施策ごとに目標指標を設置せず、政策ごとにわかりやすく目標を設定していきます。

<徹底した進行管理>

- 各施策について、実施と成果の達成について責任を持つ主な担当課を明記し、責任ある施策・事業の展開を担います。
- 各担当による進行状況を企画財政課において取りまとめ・報告するなど、徹底した進行管理を行います。また、主な取り組みの進捗に一喜一憂せず、事業の現状を踏まえ、常に目標指標を意識した議論や提案を行うなど、庁内のコミュニケーションの円滑化と活性化のための意識共有を図っていきます。

